

平成26年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市北山小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成26年4月22日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A, 算数A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B, 算数B〕
<ul style="list-style-type: none">身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容実生活において不可欠であり常に活用できていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況, 児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

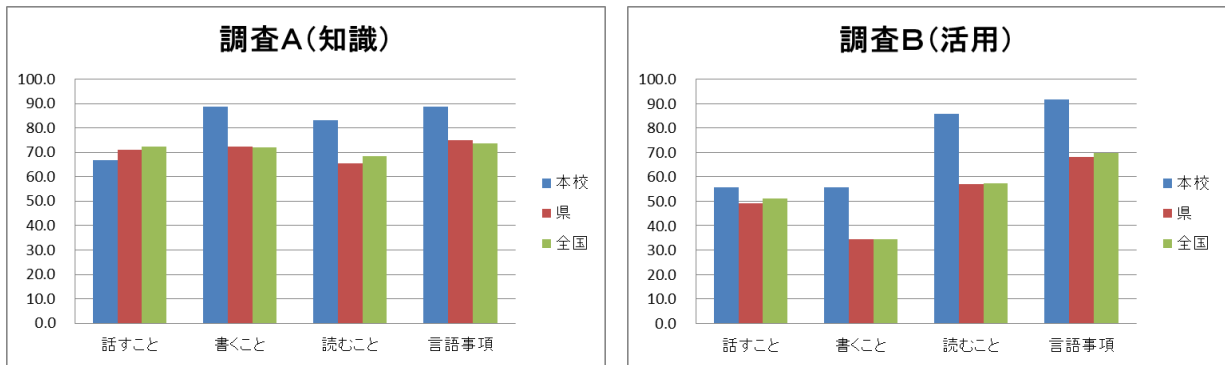
次ページからの調査結果及び全国学力学習状況調査は小6・中3と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ごらんください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果

全国及び県の正答率との比較



基礎的な知識を問うA問題の「話すこと、聞くこと」の領域はやや全国及び県平均を下回った。しかし、他の各領域、特にB問題は全国及び県平均を大きく上回った。国語の基礎基本が定着し、活用問題の解決に活かされたと思われる。

(2) 成果と課題

話す・聞く

・「話し合いの記録の仕方について考える」がやや全国より低かった。話題や目的、意図に応じて様々な観点を考えさせ、その中から解決に必要な観点を選択させたり、優先順位をつけさせたりすることが必要である。

書く

・概ね良好である。ただ、情景描写の効果を捉えることが十分でなかった。物語を読み進める上で、情景描写の意味を考えさせたり、書く活動の中で、気持ちを効果的に伝えるために、情景描写を入れて表現させたりする指導が必要である。

読む

・概ね良好であった。ただ、文章を読んで、段落の要点を捉えることや各段落の要点を関連させてまとめる関係把握力に課題があった。今後は、段落のキーワードをもとに、要点を捉えさせること、書くときの小見出しを考えてから記述させる指導、各段落のまとめを考えさせる指導の強化が必要である。

言語事項

・繰り返し指導の徹底が功を奏し、良好であった。今後も粘り強くドリル学習に取り組み、言語事項の獲得の維持を図る。また、獲得した言語事項が読解や書く活動に活用できるよう指導の工夫をしていく必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 国語の授業を中心に、「読む」「書く」「聞く」「話す」といった力を身につけます。また、獲得した国語力を他教科に活かす授業を仕組んでいきます。
- 特に、相手に考え伝えるための方法を理解させ、思考力、表現力の向上を図ります。
- 読書の充実を図ります。読書は知的活動の源泉です。朝の読書、読み語り、担任による読書の奨励をとおして、主体的に読書に取り組む子どもを育てます。

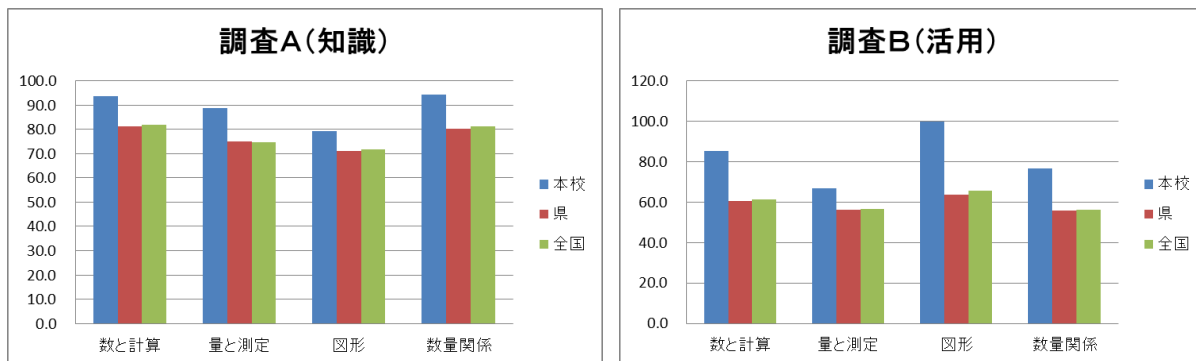
【ご家庭では】

- 読書の習慣を身につけさせましょう。毎日、自分のペースで、読書ができる環境づくりをお願いします。はじめは読み語り、交代で読むなど、興味関心を高めてください。自分で読み進めることができるようになると、本の内容などを尋ねるなど、本を媒介に会話を交わしていく。きっと更に読書意欲高まるはずです。
- お子さんと会話を楽しみましょう。聞くときは最後まできちんと聞き、話すときは語尾まではっきりと話しましょう。共感したり、根拠を尋ねたり、お互いの考えを交流しましょう。
- 漢字、音読の学習で、頑張っているところを見て、誉めてあげましょう。誉め言葉は学習意欲の源です。

2 算数

(1) 結果

全国及び県の正答率との比較



基礎的な知識を問うA、活用力を問うB問題ともにすべての領域で、全国及び県平均を大きく上回っている。しかし、図形の作図問題や自分が考えた回答の理由を筋道立てて説明する問題の正答率が低かった。後の問題は概ね良好であった。

(2) 成果と課題

数と計算

・計算問題は全国及び県平均を上回った。授業の中での繰り返し指導、家庭学習、放課後の補充指導の効果が出ている。図形、量と測定、数量関係で問題を解くときの計算で少しのミスはあったが、計算の基礎が身についていると捉えている。今後も、安定した計算力を持続できるよう指導の継続を図っていく。

量と測定

・量と測定の問題も全国及び県平均を上回った。問題文を焦点化したり図と式を関連付けて考えさせたりする指導の効果が出た。しかし、条件に合う時刻や時間を筋道立てて考える問題や問題の解決に必要な情報を選択し、根拠となる事実を関連付け、解決の方法や判断の理由を説明する問題に課題が残った。

図形

・図形についても全国及び県平均を上回った。操作活動を重視した指導の効果がでている。ただ、平行四辺形の性質を関連付けて作図する問題の正答率が低かった。作図の操作と図形の性質を関連付けての指導の強化が必要である。

数量関係

・数量関係についても全国及び県平均を上回った。数量関係を見つける問題解決学習法を取り入れた指導が効果的だった。しかし、計算のきまりを見つけ、説明したり目的に応じてグラフを選択したりする力が十分についていなかった。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 低学年は、放課後の「友愛タイム」で、高学年は放課後の「友愛タイム」と「すくすくテスト」を活用し、**基礎・基本の四則計算の定着**をめざしたり**単元ごとの確実な習熟**をめざしたりします。
- 授業では、基礎基本の徹底を図り、思考力が身につく方法を指導することにより、論理的思考力を高め、**自分の考えを筋道立てて説明できる力**をつけるよう努めます。
- T T少人数指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、**補充指導**に努めます。

【ご家庭では】

- テスト結果のみで、声をかけるのではなく、お子さんが計算学習や算数の文章問題に取り組んで努力している過程にも目を向け、励ましや称賛の言葉をかけてあげましょう。
- 算数好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせるのが一番。生活場面で算数を使ってみましょう。「おかし数えでかけ算」「おかし分けて割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で割合」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」…ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使える場面が意外とあります。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。平日 7 時までには起きる。	100.0	88.1
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	66.7	79.2
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	100.0	90.9
平日 2 時間以上テレビを見る。	66.7	61.3
平日 2 時間以上ゲームをする。(TVゲーム・パソコン・携帯型等も含む)	50.0	30.3
平日読書を 30 分以上している。	16.7	38.2
平日読書は全くしない～10 分未満。	66.7	35.2
友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ	16.7	19.3
友達に伝えたいことをうまく伝えることができる	33.3	27.3

朝食・起床については 100%、就寝においても 66.7% ということで、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムは概ねできているようである。6 年生は、登校班のリーダーということもあり、下学年の世話をし、登下校するので遅刻や不登校児童はいない。

テレビやゲームについては、全国平均より悪い結果で、長時間のテレビやゲームが常習となっている児童が少なくないようである。読書についても、学校での朝読書や休み時間の読書は身につけているが、半数が家庭では読書を全くしておらず、家庭での読書の習慣が身につけていないようである。

「友達に伝えたいことを伝える」は全国平均を上回っているが、「友達の前で発表する」は全国平均より低く、人前で発表することは苦手なようで大勢の前でも自分の意見を言えるようになることが課題である。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
平日 2 時間以上勉強している。	0	25.8
平日 1～2 時間勉強している。	100.0	36.2
平日 0～1 時間勉強している。	0	34.7
家で、学校の宿題をしている。	100.0	86.0
家で、授業の予習をしている。	50.0	16.1
家で、授業の復習をしている。	50.0	21.9

家庭学習については、100%の児童が家で宿題を行い、1～2時間勉強しており、家庭学習の時間が長いとは言えないが、家庭での学習が定着している。しかし、学習内容については、宿題中心で、常に予習・復習をしている児童は 50% であり、家庭学習の質・量をともに上げていく必要がある。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 宿題として「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本に毎日出します。自主学習（自学）の定着についても全学年で取り組み、お手本になる**自学ノート**を掲示したり、良い自学ノートの書き方をした児童を全校や学級で賞賛したりすることで、意欲を持って自主学習に取り組むようにしていきたいと考えています。
- 「**家庭学習調査**」や「**学習に関するアンケート**」をもとに、生活習慣や学習習慣についての個別指導を続けていきます。

【ご家庭では】

- 今年度 4 月に配布した改訂版の「**学習の手引き**」を参考に、家庭学習の内容を確認され、**自学ノート**の確認をしていただき励ましていただくことで、より児童の自主的な学習態度が育まれていくと思われまます。
- 年 3 回の「**家庭学習調査**」週間のときは、わが子の**学習の内容**、**読書量**を親子で確認していただくことで家庭学習への意識が更に高まると思います。